

研究者の横顔			
フリガナ	ハバノ エリ		
お名前	幅野 愛理	助成金額	100 万円
ご所属	がん研究会有明病院 臨床遺伝医療部		
研究テーマ	RRSO 後の性生活・更年期症状に配慮した QOL 包括支援のための情報提供ツールの開発と評価		
1：研究者になろうとしたきっかけ			
<p>大学時代に、がん抑制遺伝子に関する研究に携わったことが、私が遺伝性腫瘍に関心を持つきっかけでした。その後、認定遺伝カウンセラーとして臨床に携わり、遺伝性腫瘍が早期診断によって本人だけでなく血縁者の健康管理にもつながることを実感しました。一方で、遺伝学的検査やリスク低減手術の「その先」にある生活や心身の変化について、十分な情報が行き届いていない現状があります。当事者の方々の不安や葛藤に寄り添い、医療と生活をつなぐ支援の在り方を科学的に探求したいという思いが、私が研究に取り組む原動力となっています。</p>			
2：助成研究の内容紹介			
<p>本研究では、卵巣がんの罹患リスクを低減するためにリスク低減卵管卵巣摘出術（RRSO）を受けた、遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）と診断された女性を対象に、術後の性生活や更年期症状など、心身の変化に関する情報をわかりやすく伝える包括的な情報提供ツールの開発を目的としています。当事者や医療者の声を反映しながら、医学的に正確で、安心して読める内容を目指しています。情報提供ツール完成後は、全国の遺伝子診療部門や当事者会を通じて配布するとともに、デジタル版を公開し、誰もが容易にアクセスできる形で発信していく予定です。</p>			
3：2の将来に繋がる結果予想・目標			
<p>本研究を通じて、術後の変化や性生活・更年期といったセンシティブなテーマを、自然に語り合える社会の実現を目指しています。当事者が自分らしい意思決定を行い、医療者との対話を深めるための一助となることが目標です。また、得られた知見を基盤としてアジア諸国にも展開し、「がんの予防と生活の質の両立」を支える日本発の支援モデルとして国際的に発信していきたいと考えています。</p>			
4：全国の RFL 関係者に一言メッセージ			
<p>このたびは、貴重な助成の機会を賜り、心より御礼申し上げます。本助成に込められた期待に誠実に応えるため、研究者としての責任を胸に、一つひとつの取り組みを丁寧に積み重ねてまいります。成果を必ず社会に還元し、リレー・フォー・ライフの理念である「がんとともに生きる」社会の実現に貢献できるよう、誠意を尽くして努めてまいります。</p>			